

令和2年度 地域の支え合い仕組みづくり事業  
成果まとめ

# 地域資源活用による 交流型体験の里づくり事業

きじま  
**城島活力創造推進協議会**

城島地区地域活動推進会議

平塚市市民部協働推進課

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

# 1. 概要

## ■ 地区特性

- 立地条件：平塚市北部の新幹線、小田原厚木道路が通過する田園地域
- 区域区分：市街化調整区域、農振農用地区域に農家集落・園芸ハウス
- 人口構成：人口 4,000人、高齢化率 35.0%（後期高齢化率 19.0%）
- 地域資源：花卉/イチゴの観光農園、特産米“はるみ”/多種の緑色野菜  
富士/箱根連山/大山を望むビューポイント



# ■ 城島地区の地域資源①

あじさいの土手堤（大島）



ひまわりロード（下島）



小田原厚木道路



霊峰富士の絶景ポイント



箱根連山を望む畑（城所）



阿夫利大山を仰ぐ旧街道（小鍋島）



## ■ 城島地区の地域資源 ②

イチゴ農園（下島・小鍋島）



バラ農園・はたけのほんや（城所）



ホタルの湧水（城所）



湘南ライスセンターの特産米“はるみ”育苗（大島）



城島：島めぐり・歴史探訪  
（下島・大島・小鍋島・城所）

## (1) 背景

### ●地域を取り巻く状況

- ・ 小学校児童が減少、スーパー、病院等の生活支援施設も減少
- ・ 農業従事者の高齢化による休耕地や耕作放棄地の増加

→ 地域運営の持続性の危機感の増大

### ●これまで取り組み

- ・ 個別農家での観光農園化、地元JAの直販店等の取り組み

→ 地域全体の連携、活性化への結びつきの不足

### ●各種制度の活用

- ・ 農地転用、空家・空地活用に関連する法制度、特別措置等の活用

→ 関係機関協議、地元での合意形成を模索中

### ●課題認識

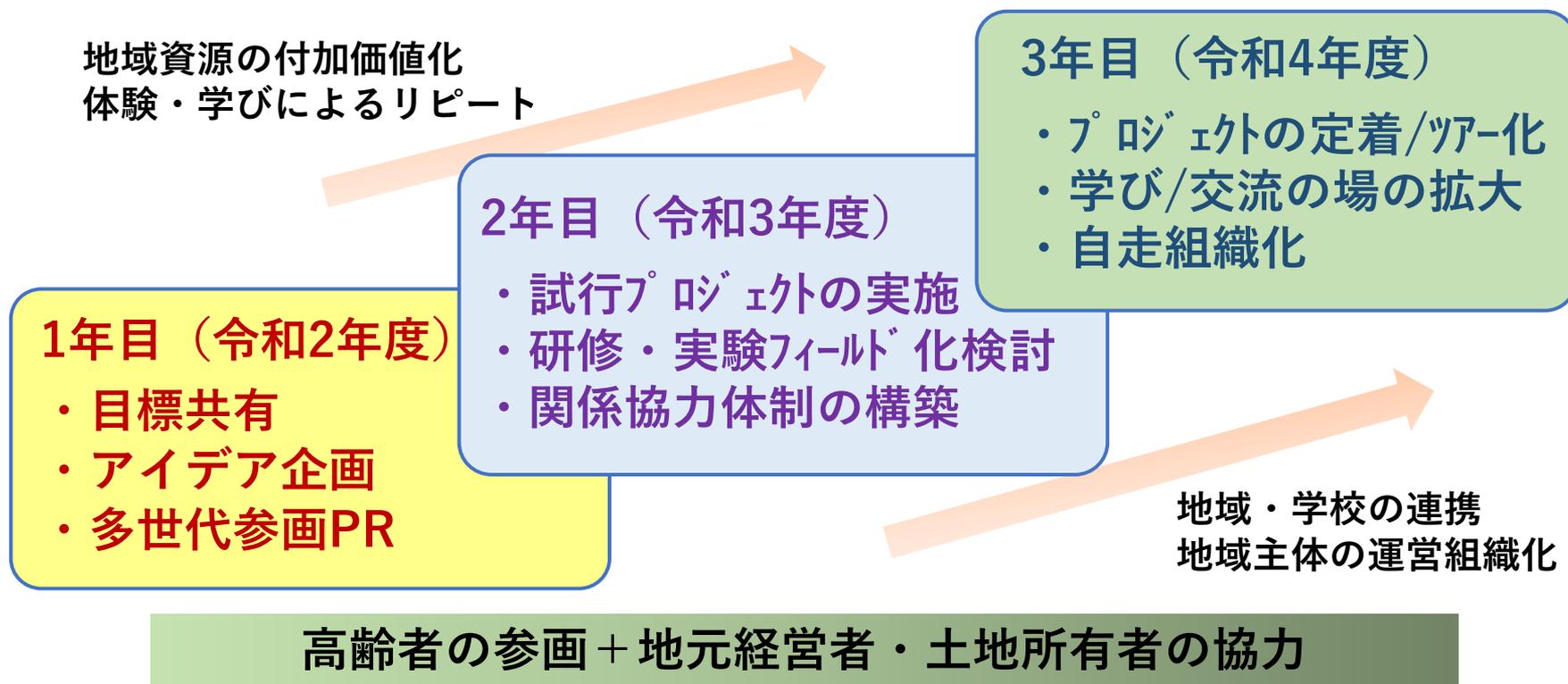
- ・ 地元各種団体から構成する「地域活動推進会議」が主体となって対応策の検討に着手しているが、世代間での課題の共有化が十分ではなく、足踏み状態

→ 農地や空家の利活用による交流人口の増加と生活環境の維持・向上、若年層や農外就業者の定年後の地域運営への参画の仕組みづくりが急務

## (2) 目的

- ・ 地域活動団体、地元の大学・高校や民間企業と連携し、地域資源を活用した交流・体験活動と高齢者がいきいき参画できる仕組みづくりを通し、地域運営の持続性を向上していく

## (3) 内容



## (4) ゴールイメージ

ウィズコロナを見据えた身近に農・学びがある暮らし・地域づくり

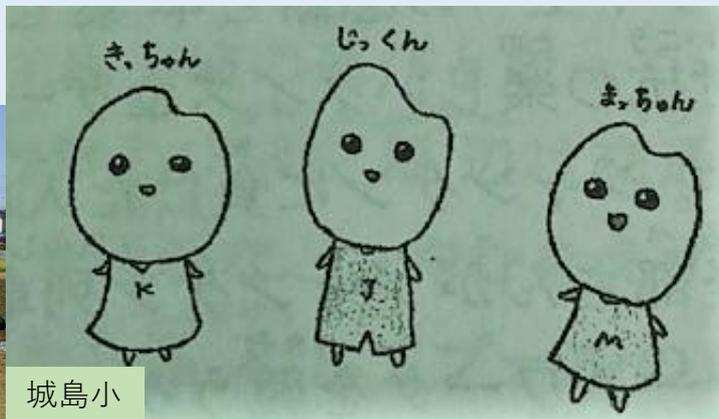


高齢者はじめ多世代が交流する持続性ある地域運営

<sup>きじま</sup>  
「城島スタイル」の発信



『ひらつかモデル』としての展開



城島小

城島地区キャラクター



## 2. 令和2年度の取組み

### (1) 計画

- ①事業内容共有化のための広報 → 10月～（4回）
- ②課題・目標確認のための「生活・暮らしアンケート」 → 12月実施
- ③地域再発見のための「地域散策／アンケート」 → 11・12月（2回）
- ④アイデア企画のための「WS（ワークショップ）」 → 12月～（3G\*6回）
- ⑤市・学校・民間連携構築に向けた「関係機関協議」 → 11月～
  - ・平塚市（健康課、産業振興課、農水産課、農業委員会）
  - ・東海大学（健康学部、工学部）／平塚農商高校
  - ・JA、地元企業

### (2) コロナ禍での工夫

#### ●地元高齢者の意識喚起

- ・集会型の説明会等が困難なため、公民館だより、自治会役員によるアンケート訪問配布・回収によりきめ細かな周知、情報共有を実施

#### ●WS参加者の感染防止対策

- ・参加者のオンライン環境が整っていないため、三密回避、検温、マスク着用を徹底し、換気の良い公民館集会場で10人程度グループ単位で開催

## (3) 実績

### ① 広報

### ② 生活・暮らしアンケート

- ・ 地域住民 940世帯 回収率62%
- ・ 事業所 18社

### ③ 地域散策／アンケート

- ・ 城所・小鍋島 ・大島・下島地区

### ④ WS（ワークショップ）

- ・ 資源活用G／資源活用G／広報G

### ⑤ 関係機関協議

### ● 地域づくりの目標の共有

- ・ 「高齢者が元気で暮せる」
- ・ 「子どもの声が聞こえる」

### ● 資源・環境活用の取り組みの重要性の確認

- ・ 「富士山や大山を望む景観、自然環境」
- ・ 「休耕田・空き施設等を活用した農業体験、地産物の販売」
- ・ 「子どもたちの学び・遊びの展開」

### ● 試行プロジェクト・アイデアリストの作成

- ・ 市推進の「葉酸プロジェクト」との連携

## (4) 振り返り

### ● 多世代参画に向けた情報発信への対応

- ・ 公民館だより（10月～）、HPの開設（2月～）により事業周知に努めたが、高齢者も多く、コロナ禍長期化のため、企画・実行体制が立ち遅れ

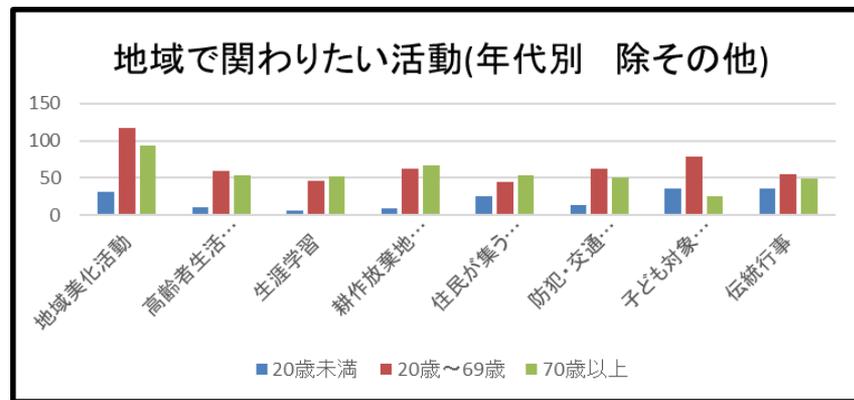
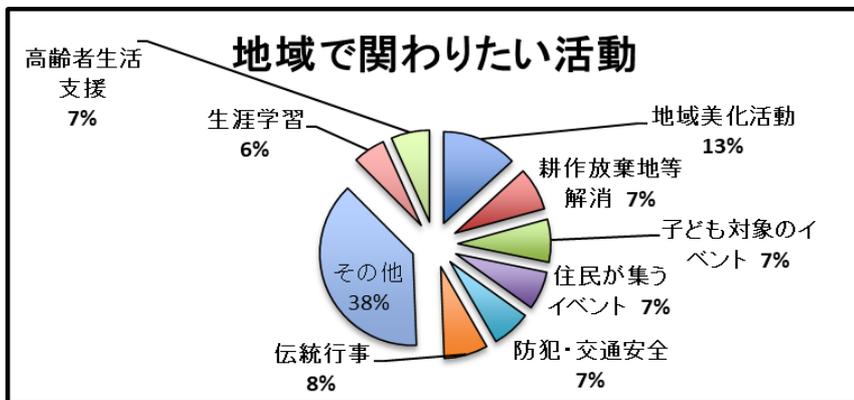
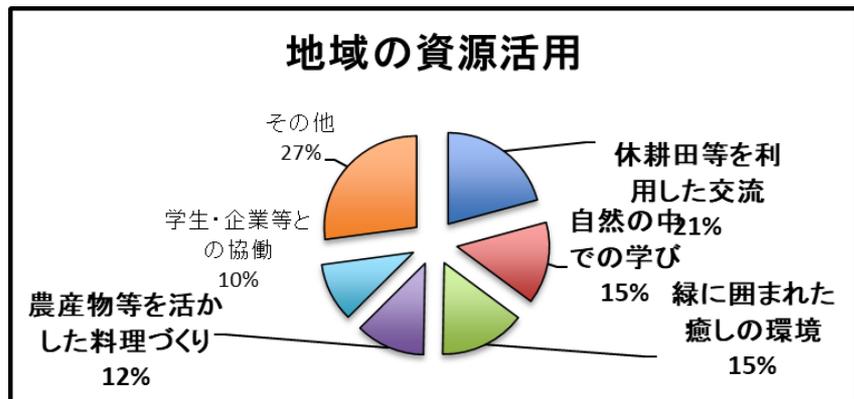
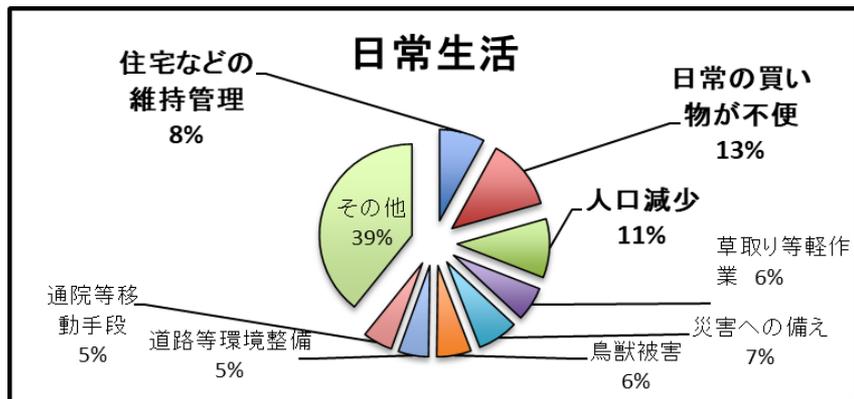
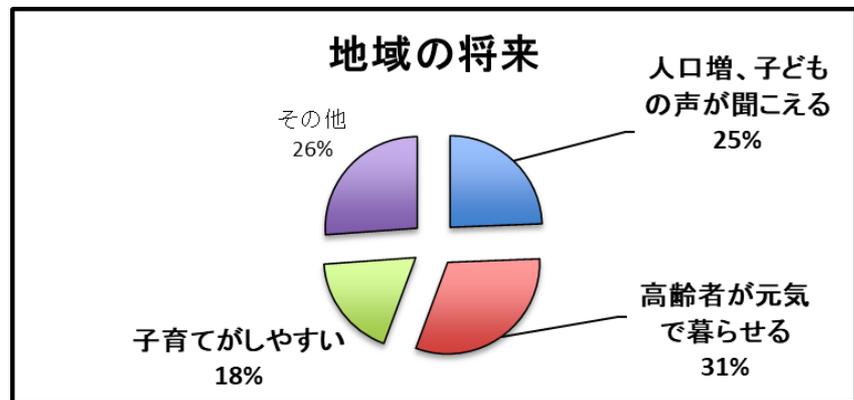
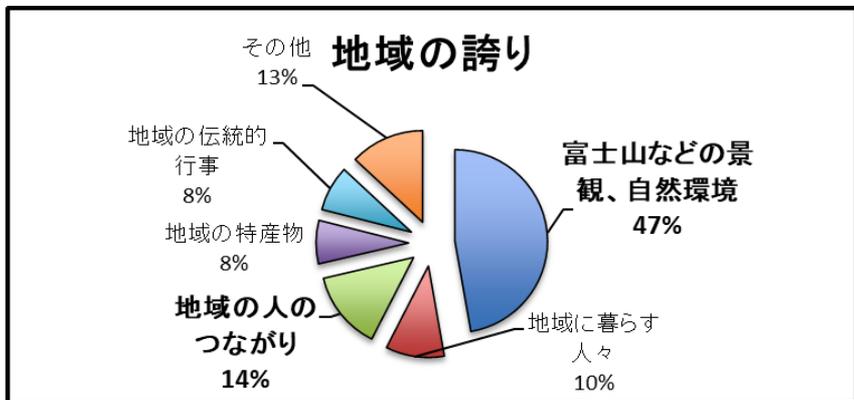
→ SNSの活用によるオン・オフラインを組み合わせたPR、情報発信着手

### ● 学び・体験教育等関係機関との連携への対応

- ・ 「健康」、「農」、「体験」に関連するアイデアを試行的体験プロジェクトへと具体化、実践運営していく関係者連携構築が立ち遅れ

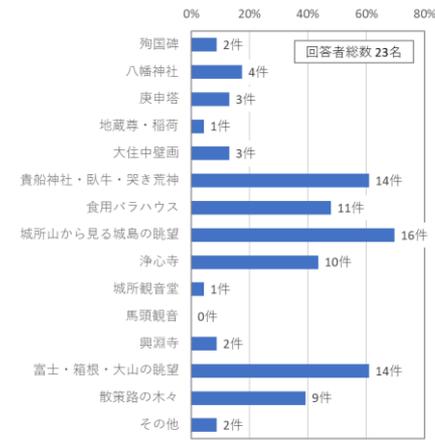
→ 栄養士、企業、地域教育力関係者を加えた市内外のパイプづくり着手

# ■ 城島地区の生活・暮らしアンケート結果（地域住民）



# 城島地区の地域散策

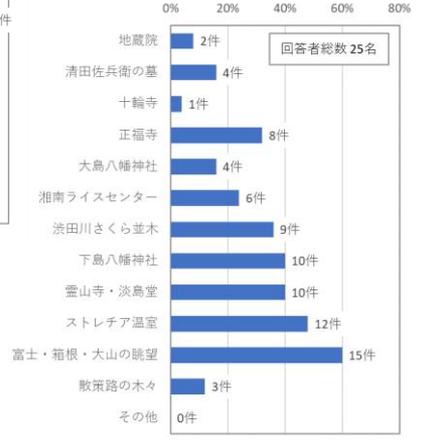
【他地域の人たちに紹介したい、もっと活かしていきたいと思った場所】 ※複数回答あり



# ←小鍋島・城所

# 大島・下島

【他地域の人たちに紹介したい、もっと活かしていきたいと思った場所】 ※複数回答あり



## 小鍋島・城所編

## 大島・下島編



## 3. 令和3年度の取組み

### (1) 計画

#### ●目標と成果

- ・交流型体験プログラムの試行と自走化に向けた運営体制づくり
- ・地元高齢世代と子育て世代、若年世代（大学生や高校生等）との協働を基本に持続性ある事業運営計画の策定

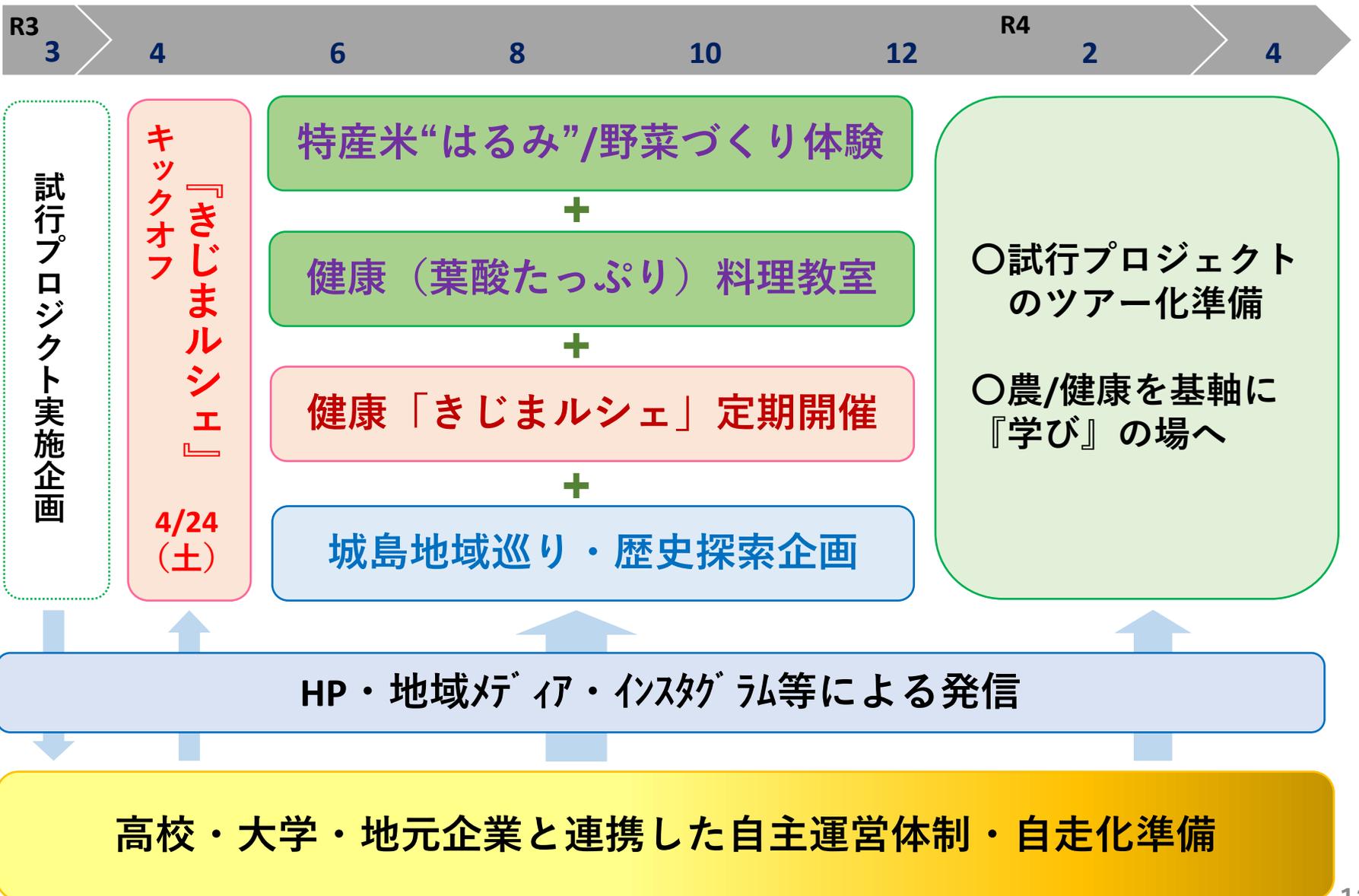
#### ●活動内容

- ・休耕田畑・施設を活用した試行プロジェクト（農業体験、料理教室、地域巡り・散策等）と活動のPRの実施
- ・試行プロジェクトの年間ツアー化企画、事業収入増の仕組み検討
- ・大学、高校ならびに民間企業が継続的に事業運営に参画していただける演習・研修・試作開発フィールドとしての連携の具体化の可能性協議
- ・先進事例における事業制度、支援措置、資金調達等の地元適用性検討

#### ●活動体制

- ・大学、高校、民間企業の参画による企画・実行体制  
→資源活用G／農地活用G／広報G／渉外G（★新設）
- ・平塚市関係部局との定期協議による事業化調整体制  
→農水産課／農業委員会／健康課／産業振興課／教育委員会（★追加）

## (2) スケジュール



# ■ 試行プロジェクト実施候補マップ案



-  農体験候補
-  マルシェ候補
-  歴史探索候補
-  散策ルート候補

## 4. 他都市へのアドバイス (高齢者参画・活躍の仕組みづくりとして)

### ● 問題意識、思いの世代間共有

- ・“わがまち”意識の高い高齢者の方々の思いをこれからの共生・持続型の地域社会において形にしていくためには、その“問題意識”、“思い”を形にしていくための認識を次世代と共有し、目標設定とその達成のための手段・メニューの共有が不可欠ではないか？

→地域に居住する10代（中学生以上）を含めた全世帯アンケートは大変であったが、貴重なベースデータとなっていくと思われる。

### ● リアルとオンラインの組み合わせによる協議・合意形成

- ・三密対策・ソーシャルディスタンスを意識した社会を見据えると情報共有の時差・温度差は、地域一丸・世代間協働および合意形成に支障をきたすこととなるのではないか？

→従来の媒体・場の活用（リアル）を基本にしつつも、地域内IT環境の整備と浸透（オンライン）を組み合わせ、その担い手となる“人材”を積極的に登用していくことが重要となっていくと思われる。